

今月の15首

佐佐木幸綱・選

フクシマと幾度も呼びかけらるる歌流れてわれは浅く戸惑う

一指づつはづしやる時気付きたりスプーンを握る母の頑張り

確固たる母たらむとし乗せぬたるこの貌をいま冬陽に晒す

君は行き我は変わらずここにいるプラットフォームを違えたように

泣きながら自分の頭を叩く子よ 拳にちひさき嵐にぎりて

元旦にドクターへりに処置をする次男の姿ネットに見たり

濾すの字は思ひを抱ふ釉薬を篩にて濾す力をこめて

兄と行くこの秋一番の寒い朝歯の無い口を子は食い縛る

装飾を施したるうへ口縁に紐の通し穴 太鼓といふ説

震災後最初の正月帰省する同僚増えて静もるオフィス

雪起しにばりばり裂けてゆく空のあたらしくしてふるさとはあり

明滅する表皮細胞ヤリイカが海へ帰せと激しく迫る

春遠し西風強き瀬戸内海金属音をかすかに伝ふ

ほの香る柚子湯浴み得つ老い二人生きて今年の大年越えむ

帰還困難区域居住制限区域避難指示解除準備区域に帰れぬ人

駒田 晶子

勝山多見子

金 美苑

佐佐木定綱

山口 明子

長嶺 元久

経塚 朋子

堤 幸子

津幡 昭康

森屋めぐみ

塚本 瑞江

加賀谷 実

祖母井美香

田中 江子

本田 一弘